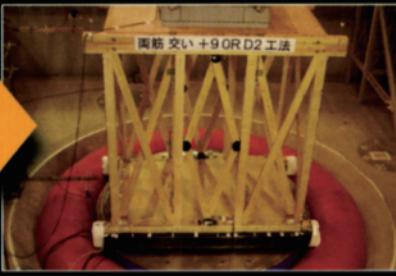


制震効果を阪神・淡路大震災の揺れで実証

木造2階建ての1階部分を想定した負荷をかけ、従来型の耐震構造の試験体との比較によって制震効果を確認しました。入力地震波の規模は震度5・6・7クラスの3種類とし、さまざまな工法との併用を想定し、筋交い工法・合板工法の2種類の試験体に、それぞれジーバユニットを設置した場合としなかった場合の合計12パターンで実験を行いました。(監修:東京理科大学 理工学部 井口研究室)

中地震・大地震・巨大地震 あらゆる規模の揺れを吸収

<p>耐震構造（合板工法） 震度7実験後</p>  <p>従来型の耐震構造の試験体が倒壊</p>	<p>ジーバ<GVA>をプラス 震度7実験後</p>  <p>残留変形がみられません</p>	<p>ジーバ<GVA>をプラスすることで得られる効果</p> <p>震度5では</p> <p>耐震の構造体だけでも小さな揺れに抑えることができますが、それをさらに小さな揺れに抑えます。</p> <p>震度6では</p> <p>耐震の構造体だけでは、揺れが目立つようになります。 揺れを50%~69%吸収。</p> <p>震度7では</p> <p>耐震の構造体だけでは倒壊するものもありましたが、 揺れを59%以上吸収し、倒壊を防ぎました。</p>
<p>耐震構造（筋交い工法） 震度7実験後</p>  <p>筋交いが全壊し、傾いた状態でかろうじて立っている</p>	<p>ジーバ<GVA>をプラス 震度7実験後</p>  <p>残留変形がみられません</p>	

あなたの家づくりにジーバ<GVA>をプラスすると



※ ご希望の方には、GVA装着・未装着で性能の違いが分かる振動解析を実施しております。(有料)